

事例 No.3 日本語教育方法論

宇都宮大学

主たる対象者	大学生
目標	・子どもの日本語学習について主体的に考えられるようになる ・子どもへの日本語教育のシラバスについて知る
研修内容	⑰日本語指導の理論と方法「日本語指導と教科書」他★①③⑤⑱
形態・方法	講義・活動型
時間	70分

★本事業報告書(2017)「養成・研修内容構成」(pp.72-76)の項目

1. 現状と課題

本学国際学部の学生の日本語教育への関心は高く、例年、外国人児童生徒の学習支援ボランティアに取り組む学生が少なくない。こうした中で、実際に子どもの状況に直面し、どのようにサポートすればよいかと思悩む様子や模索している様子が見受けられ、授業内外で相談を受けることがある。

他方、卒業後の進路を見ると、教員免許や日本語教員養成の修了証書を取得しても教員になる学生が少ないことから、何らかの契機となるような場を提供することが必要であると思われる。小中学校の日本語教室を受講学生全員が見学することは人数等の面から難しいものの、大学の授業で子どもへの日本語教育について知ることは可能であり、かつ有効であると考えられる。

そこで、本実践では、国際学部専門科目「日本語教育方法論」の一部にモデルプログラムを活用し、「日本語指導と教科書—子どもへの日本語教育—」をテーマとした授業を行った。具体的には、日本語教室でどのような指導が行われているのかを中心に学んだ後、子どもの状況に応じて日本語教科書を選定するといった模擬体験を通して年少者日本語教育の基礎を身に付けることを目指した。学習支援上の課題解決の糸口を自ら見いだせるようになるための基礎として、(1)子どもの日本語学習について主体的に考えられるようになること、(2)子どもへの日本語教育のシラバスについて知ることを目標に授業を展開した。

2. カリキュラム（研修実施計画）

★本事業報告書（2017）の「養成・研修内容構成」（pp.72-76）の項目

授業名	国際学部専門科目「日本語教育方法論」（選択科目）			
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・人数:31人 ・年齢層:10-20代 31名 ・受講者の立場:学生 			
テーマ	日本語指導と教科書—子どもへの日本語教育— ★⑰日本語指導の理論と方法 ①外国人児童生徒教育の考え方 ③外国人児童生徒等受け入れの現状と施策 ⑤学校の受入体制 ⑱個別の指導計画の立て方			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日本語学習について主体的に考えられるようになる。 ・子どもへの日本語教育のシラバスについて知る。 			
活動展開（115分）	★	形態	留意点	資料・教具等
導入： 1. 「日本語指導が必要な児童生徒」について（5分） 展開： 2. 日本語教室の例（10分） 3. 日本語教室での学習内容について（10分） 4. 発達段階にあわせた日本語指導について（5分） 5. 日本語教育におけるシラバスについて（5分）	① ③ ⑤ ⑱ ⑰	講義 講義 講義 講義	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語指導が必要な児童生徒」の定義と状況について知る ・DVDを見ながら、指導する場所、指導時間などについて知る ・来日当初の初期指導とその後の中期指導の違いについて知る <ul style="list-style-type: none"> ・「サバイバル日本語」プログラム ・「日本語基礎」プログラム ・「技能別日本語」プログラム ・「日本語と教科の総合学習」プログラム ・「教科の補習」プログラム ・小学生前半、小学生後半、中学生の指導方法について知る ・各シラバスについて理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」 ・DVD ・文部科学省「外国人児童生徒受け入れの手引き」 ・文部科学省「外国人児童生徒受け入れの手引き」

6. 年少者向け日本語教科書について (10分)	⑰	活動	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教科書の目次をもとにシラバスの違いを2～3人で話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 『ひろこさんのたのしいにほんご1』『にほんごをまなぼう』『日本語を学ぼう3』『おひさま』
7. 日本語教科書の選定 (15分)	⑰	活動	<ul style="list-style-type: none"> 学年・滞在期間・学習段階等に応じた日本語教科書はどれか、2～3人で話し合う 話し合いの後、席の前後で意見交換する 席の前後4～5名のグループの各代表者が報告し、それぞれの考えを全体で共有する 教員は必要に応じて補足する 	
まとめ： 8. 全体のまとめとふりかえり (10分) ※終了後アンケート記入		講義 ・ 活動	<ul style="list-style-type: none"> 全体をまとめ、日本語教科書の他にどのような教材があるとよいかを発展的に考える 授業後にWebサイトで公開されている日本語教材を閲覧する 各自の振り返りを「ふりかえりシート」(毎時使用)に記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省「かすたねつと」他

3. 実施者による振り返り

本実践は、上記1. に述べた課題意識をもとにモデルプログラムを活用して行ったものである。まず講義形式で概説し、その後、年少者向け日本語教科書を複数検討する活動、加えて学年・滞在期間・学習段階に応じた日本語教科書を選定する活動を織り交ぜながら進めた。受講学生は、積極的に取り組み、年少者日本語教育への理解と関心を深めることができた。授業後の受講者アンケートにおいても高い満足度が得られた。

このような成果が得られたのは、第一に、日本語教科書を選定する活動を中心に据えた本実践において、授業の前半部でその活動を支える専門知識を提供できたからだと考える。モデルプログラム⑰及び⑱は、文部科学省の「外国人児童生徒受入れの手引き」にも部分的に対応しているものである。そこに示されている各種日本語プログラム(サバイバル日本語、日本語基礎、技能別日本語、日本語と教科の統合学習)を授業の前半部で説明した後、個々の子どもの状況に応じた日本語教科書を選定する活動へとつなげ、ペアワーク・グループワークを円滑に進めることができた。

第二に、(1)各日本語教科書がどのようなシラバスで構成されているかを考える活動

と、(2)学年・滞在期間・学習段階のそれぞれが異なる四つのケースに応じてどの日本語教科書を使うのがよいかを考える活動の二つが、子どもへの日本語教育を主体的に考える上で有益だったと考える。グループワークの報告では、単に正解を求めるのではなく、どのように考えてその日本語教科書を選択したかを述べるように促した。各グループで考えたことを全体で共有することによっても各自の学びが深まったと思われる。

さらに、授業の最後には、日本語教科書以外の教材・教具について触れるとともに、Webサイト上の日本語教材に関しても閲覧を促し、今後多様なケースに直面した際に学生自身が自律的に考えられるように配慮した。これらを実践の授業の流れに位置づけ取り上げたことによって学生自身の発展的な学びが期待される。

以上の通り、モデルプログラムをもとにした本実践では、年少者日本語教育への関心と理解を深めるといった成果があった。子どもの状況に応じた日本語教科書をペアやグループで考えた本実践の次の段階としては、自分一人でも考えることができる力や、日本語教科書に触れられていない点を補足・発展できる力を高めていく必要があると思われる。今後、実際の授業の進め方、問いの立て方、日本語教科書以外の様々な教材などについても学ぶ場を設け、教育力の向上につなげていきたい。

4. 資料

(1) 使用/参照した資料一覧

- 1) 文部科学省「『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成28年度）』の結果について」<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/1386753.htm>（2018年10月24日）
- 2) 早稲田大学大学院日本語教育研究科制作・監修DVD「年少者日本語教育の最前線 JSL の子どものことばの教育を創造する―「鈴鹿モデル」の挑戦―」, 2010年
- 3) 文部科学省「外国人児童生徒受入れの手引き」<http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm>（2018年10月24日）
- 4) 根本牧・屋代瑛子『ひろこさんのたのしいにほんご1』凡人社, 2004年
- 5) 文部科学省『にほんごをまなぼう』ぎょうせい, 1992年
- 6) 文部省『日本語を学ぼう3』ぎょうせい, 1995年
- 7) 山本絵美・上野淳子・米良好恵『おひさま[はじめのいっぽ]―子どものための日本語―』くろしお出版, 2018年
- 8) 文部科学省「かすたねっと」<<http://www.casta-net.jp>>（2018年10月24日）

(2) 配布資料 (抜粋)

日本語教育方法論

日本語指導と教科書 —子どもへの日本語教育—

1. 日本語指導が必要な児童生徒

- ・ 日本語で日常会話が十分にできない児童生徒
- ・ 日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じており、日本語指導が必要な児童生徒

外国籍：34,335人 日本国籍：961人 (平成28年5月1日現在)

(文部科学省初等中等教育局国際教育課 2017)

2. 日本語教室の例

◇DVDを見ながら日本語教室の様子を知ろう。

指導する場所 _____

指導する時間 _____

その他 _____

3. 日本語教室での学習内容

① 「サバイバル日本語」プログラム

日本の学校生活や社会生活について必要な知識、日本語を使って行動する力をつける

- A) 健康で衛生的な生活を送るために (例. 「先生、トイレいいですか」「お腹、いたいです」)
- B) 安全な生活を送るために (例. 「車、気をつけて」「危ない、だめ」「助けて」)
- C) 周囲の仲間との関係をつくるために (例. 「おはよう」「ありがとう」「ごめん」)
- D) 学校の生活を円滑に送るために
(例. 「次、何の勉強?」「国語/算数/社会/理科 他」
「先生、どこ?」「体育館/グラウンド/職員室 他」
「そうじ/ぞうきん/ほうき」「持ち物/しおり/すいとう/お弁当 他」)

② 「日本語基礎」プログラム

- A) 発音の指導
- B) 文字・表記の指導
- C) 語彙の指導
- D) 文型の指導

③「技能別日本語」プログラム

- A) 「聞く」活動（リスニング練習、本の読み聞かせ など）
- B) 「話す」活動（ディスカッション など）
- C) 「読む」活動（長文読解 など）
- D) 「書く」活動（作文 など）

④「日本語と教科の統合学習」プログラム

日本語を学ぶことと教科内容を学ぶことを一つのカリキュラムとして構成

例. 「～に～があります」の文型を社会科に関連付けて、地図を見ながら街の東西南北に何があるか読み取り、日本語で表現する。

JSL カリキュラム 小学校編 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm
中学校編 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm

⑤「教科の補習」プログラム

在籍学級で終わらなかった学習課題や宿題、理解が不十分な内容の復習 など

(文部科学省初等中等教育局国際教育課 2011:26-33)

4. 発達段階にあわせた日本語指導

①小学生の前半（1～3年生程度）

<特徴> 日常生活の日本語使用場面でシャワーのように自然な日本語を浴び、その表現を場面との関係で丸ごと覚える。

<指導方法> 文法説明はあまり有効ではない。児童の生活に関連のある具体的な場面とともに日本語を聞き、その表現を繰り返し使って活動する経験を通して習得する。

②小学生の後半（4～6年生程度）

<特徴> 言語を分析する力が一定程度発達しており、具体的な場面での日本語使用例を聞いたり補助的な説明を受けたりして規則を理解することができる。

<指導方法> 理解した日本語を実際の場面や興味のある内容に関連付けて使う経験を通して習得させる。

③中学生

<特徴> 言語を分析する力や文法規則を応用して使用する力も発達しつつあり、用例と説明を受けて意味や規則を理解することができる。

<指導方法> 理解した日本語を状況に合わせて使用する練習を通して運用力を高める。

(文部科学省初等中等教育局国際教育課 2011:34)

5. 日本語教育における「シラバス（学習項目）」

教育方法、あるいはクラスの教育・習得内容（たとえば、文法構造、文パターン、機能、トピックなど）とその構成を示したもの。これは単に内容のリストのこともあれば、構成要素を順序づけている場合もある。

（社団法人日本語教育学会 2005:754）

①文型シラバス

- 例. ・～は～です
・～は～ではありません
・～てください

②場面シラバス

- 例. ・教室で
・休み時間
・給食

③話題シラバス

- | | |
|------------|--------|
| 例. ・わたしの一日 | 例. ・政府 |
| ・わたしの家族 | ・国会 |
| ・日本の料理 | ・裁判所 |

④技能シラバス（「聞く」「読む」「話す」「書く」）

- 例. ・説明文を書く
・感想文を書く
・意見文を書く
・要約文を書く

⑤複合シラバス

6. 年少者向け日本語教科書

教科書とは、ある教育・学習目的のためにデザインされたカリキュラムに従って教育・学習内容を編成し、学習項目ないしシラバスを一定順序に配列し、印刷物などにまとめたものである。

（社団法人日本語教育学会 2005:899）

【問題】各教科書は、どのようなシラバスで構成されているだろうか。複合シラバスの場合には、何と何の組み合わせかも考えてみよう。

	書名・出版社名	教科書の構成	シラバスの種類
A	『おひさま』くろしお出版	1. ぼく・わたし 2. かぞく 3. せかいのくに ・ 26. 未来のぼく・わたし	
B	『ひろこさんのたのしいにほんご1』凡人社	1. おはようございます。 2. わたしは ひろこです。 3. わたしは にほんじんです。 ・ 48. きょう ふじ山へ 行った。	
C	『にほんごを まなぼう』ぎょうせい	1. おはよう 2. わたしのなまえ 3. きいてみましょう ・ 33. えんそく	
D	『日本語を学ぼう3』ぎょうせい	1. エプロンを作ろう 2. 大きいカステラはどっち？ 3. リレーの練習 ・ 27. スポーツを通じた国際交流	

7. 日本語教科書の選定

【問題】次の場合にどの日本語教科書を使うのがよいか考えてみよう。

- ①フィリピンから来たAさん（「サバイバル日本語」プログラム、来日直後、小学6年生）の場合
- ②ブラジルから来たBさん（「日本語基礎」プログラム、来日直後、小学1年生）の場合
- ③ベトナムから来たCさん（「日本語基礎」プログラム、来日直後、小学3年生）の場合
- ④タイから来たDさん（「日本語と教科の統合学習」プログラム、来日6ヵ月、小学5年生）の場合

【発展1】日本語教科書の他にどのような教材があるとよいか考えてみよう。

【発展2】Webサイトで公開されている日本語教材にどのようなものがあるか調べてみよう。

参考文献

- 社団法人日本語教育学会（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店
文部科学省初等中等教育局国際教育課（2011）「外国人児童生徒受入れの手引き」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
文部科学省初等中等教育局国際教育課（2017）『「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成28年度）」の結果について』http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/1386753.htm